

# お人形

南沢明子

私の通った幼稚園は長野県の田舎にありましたので、通園の途中の田圃の畔道や桑畑で摘んで遊んだ草花や桑の実の思いと共に、成長していく私の心を温く育ててくれたように思っています。

\*

現在、私が勤めています幼稚園には、常時、ママごとコーナーが設置されており、

私のダンスの中に今も眠っているアメリカ生れの眠り人形、随分古くなっていきます。これを見ていると幼い頃の思い出が小学校から幼稚園へとつらなって浮んでくるので捨てられないで大切にしまっておりま

す。これを見ていると幼い頃の思い出が小学校から幼稚園へとつらなって浮んでくるので捨てられないで大切にしまっておりま

す。赤い髪の毛の青い美しい眼の眠り人形を寝かせたり抱いたりしながら、なかなか母が帰って来ないのでベッドの上で、人形と並んで眠ってしまったこともありまし

た。小学校の三年生の時、盲腸炎で一か月入院した折、幼稚園の先生がお見舞にこの人形を持ってきて下さいました。

とてもうれしくて母が家に帰ったり買物に行ったりしている間、それはとても長

ついでに、淋しく感じたのですが、この人形によってどんなにかなぐさめられたことでしょ

う。赤い髪の毛の青い美しい眼の眠り人形を寝かせたり抱いたりしながら、なかなか母が帰って来ないのでベッドの上で、人形と並んで眠ってしまったこともありまし

た。このお人形を下さった先生は、閨屋先生と仰って眼鏡をかけた若い先生でした。

今でも、人形と折り重なって、先生と手をつないで遊んだ事を思い出します。

その合間に人形の赤ちゃんの様子をみた

り、だいてあげたりいたします。何とも母親の姿を見せられているような思いがいたします。

こうした遊びが三人一五人といつの間にか仲間が増えお昼がくるまで遊んでいきます。そこではきつと楽しい思いの中で子供



達の心が充たされ——大切な時を過しているのだらうかと思えます。

\*

一か月近く毎日ママごとをしているR子は兄弟が五人もいて貧しい家庭です。ついで此の間一番下の妹が生まれました。R子は三番目。下に二人の子供がいます。R子は満たされない気持を人形をいじめながら満たしているのでしょうか、お母さんのようにしながら自分をなぐさめているのでしょうか。三十分も四十分も人形をねかせたり洋服を着がえさせ、ホックをとめたりはずしたり、それは丹念に同じ事を繰り返しております。そして時々人形を抱きあげ頬ずりをして、ニッコリと微笑むのです。私共の入る余地もない程に、子供の夢の世界に遊んでいる様子がかがえるのです。そんな動作を繰り返したあと、お隣りに住むK子と、いそいそと食事の準備をしたり、かご

をさげて買物に出かけたりいたします。

\*

人形に心温る思い出を持っております私は幼稚園におく人形にも心を配りました。子供の心に応えられるような人形を置いております。布団や洋服もお母様方が揃えて下さいました。女兒とは限らず男児も又この人形を抱いて歩いている事がありません。洋服を脱がせ、又着せる、この繰り返し子供にとつて、楽しい魅力的な遊びのようです。

子供の時期が終わったから人形とのつきあいが終わったと言うような関係でなく又単なるおもちゃとしてでなく、子供の心を満たし、なぐさめ、又大人へ向って成長していく心の支えのようなものではないかとも思われます。

(浦和母の会幼稚園)